

日本女子大学 心理学科の会 会報

# さいころじん

22号



# 第 22 回心理学科の会総会

2016 年 10 月 15 日（土）、第 22 回心理学科の会総会が行われました。出席者 13 名、委任状 417 名により、会費納入会員の過半数を超え、総会が成立いたしました。



## 会長の交替

- ◇ 現会長 鈴谷桃子氏（博士課程後期 6 回生）
- ◇ 新会長 中村眞理氏（現博士課程後期 2 年）

## 第 22 回心理学科の会総会 新会長 中村眞理氏よりご挨拶

『この度次期会長を賜りました中村眞理でございます。  
歴史ある「心理学科の会」発展のため力を尽くして参ります所存でございます。  
今後も皆様のご理解とご協力、またご意見を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。』

## 2015 年度 活動報告（事業報告）

- ◇ 総会開催 《日女祭 同時開催 2015 年 10 月 17 日（土）》
- ◇ 講演会  
2015 年 10 月 17 日（土）《日女祭同時開催》西生田キャンパス B 棟 24 番教室  
小塩真司氏 早稲田大学文学学術院 教授  
「良い性格・悪い性格とはなんだろうか」
- ◇ 講演会  
2015 年 11 月 14 日（土）西生田キャンパス B 棟 15 番教室  
高田みほ氏 博士課程前期 17 回生 修了生  
パレスチナで“大きくなる”ということー子ども達のたくましさ in West Bankー
- ◇ 学術交流研究事業 講演会  
2015 年 11 月 15 日（日）西生田キャンパス B 棟 14 番教室  
木沢由紀子氏 国立国際医療研究センター国府台病院 心理療法士  
高橋美枝氏 埼玉東萌短期大学 教授  
河嶋奈穂子氏 社会福祉法人 児童養護施設 東京家庭学校 心理療法担当職員  
飯長喜一郎氏 日本女子大学 名誉教授  
「生涯学習センターの心理相談室での学びと経験を生かした心理臨床  
ー心理相談室開設 20 周年を迎えてー」
- ◇ さいころじん（第 21 号）の発行
- ◇ 総会準備（卒業生へ総会の案内送付、2015 年度決算報告の作成、2016 年度予算案の作成など）

## 2015年度 決算報告

※次頁参照

## 2016年度 活動方針（事業案）

### 活動方針

継続して、卒業生委員の活動を活性化する。

### 事業案について

- ◇ 総会開催《日女祭 同時開催 2016年10月15日（土）》
- ◇ 講演会《総会 同日開催》 西生田キャンパス B棟24番教室  
飯長喜一郎氏 日本女子大学 名誉教授  
「学生が飯長先生と深める心理学の時間」
- ◇ さいころじん（第22号）発行
- ◇ 総会準備（卒業生への総会の案内の送付、2016年度決算報告の作成、2017年度予算案の作成など）

## 2016年度 予算案

※次頁参照

### 会則改定

今回の総会にあたり、心理学科の会の委員会で会則の確認を行ったところ、現況と異なる部分があり、会則の改定を提案し承認されました。

会則改定の件の提案（研究室部会）

以下の4箇所の改定について

現行会則	改定案	改定理由
4条（事業）	名簿作成の表記を削除	名簿発行を行わないため
10条（会計及び会計監査）	会計管理は研究部会が行う	大学からの指導
11条（運営委員会）	。の削除	誤植
15条（任期）	学生委員は1年、卒業生委員の任期は定めない。	現況に合わせて変更

改定した新会則は最終ページに記載します。

## 会員承認について

新会員 89 名 (大学院生 5 名、学部生 84 名)



平成27年度 会計決算報告  
H27.10.1~H28.9.30

収入の部		(単位:円)	
費目	予算額	決算額	適用
前年度繰越金	2,854,110	2,854,110	
入会費/会費	600,000	672,000	H26年度新入会費/会費
雑収入	1,000	216	利息他
心理学科助成金	179,000	179,000	大学刊行助成金
合計	3,434,110	3,505,326	

2016.9.30現在

支出の部		(単位:円)	
費目	予算額	決算額	適用
印刷費/報告書	300,000	251,100	研究成果報告書外部印刷委託
会報	200,000	166,428	さいごろじん外部印刷委託
宛名タック紙	10,000	11,284	
人件費/発送作業	0	15,000	発送封入作業アルバイト代
行事費/総会運営	10,000	5,288	
講演会	250,000	184,099	講師謝礼 他
親睦会	10,000	0	
事務費/送料・通信費	300,000	457,801	印刷・郵送代
事務消耗品	10,000	6,702	
会議費	20,000	9,720	
雑費	10,000	1,188	支払手数料他
学生会活動費	100,000		
卒業生部会活動費	100,000		
次年度への繰越金	2,114,110	2,396,738	
合計	3,434,110	3,505,326	

以上、相違ありません。

2016年 10月15日

平成28年度 会計予算案  
H28.10.1~H29.9.30

収入の部		(単位:円)	
費目	予算額	適用	
前年度繰越金	2,396,738		
入会費/会費	600,000	H28年度新入会費/会費	
雑収入	1,000	利息	
心理学科助成金	179,000	大学刊行助成金	
合計	3,176,738		

2016.9.30現在

支出の部		(単位:円)	
費目	予算額	適用	
印刷費/報告書	300,000		
会報	200,000		
宛名タック紙	20,000		
人件費/発送作業	40,000	20,000×2回	
行事費/総会運営	10,000		
講演会	250,000		
親睦会	10,000		
事務費/送料・通信費	300,000		
事務消耗品	10,000		
会議費	20,000		
雑費	10,000		
学生会活動費	100,000		
卒業生部会活動費	100,000		
次年度への繰越金	1,806,738		
合計	3,176,738		

2016.9.30現在

心理学科の会 委員 M1

夢沼 涼子 





学生が飯長先生と深める心理学の時間

飯長先生講演会



2016年10月15日(土) 24 番教室

<飯長喜一郎先生の経歴>

1975年 東京大学大学院教育学研究科教育心理学  
専門課程博士課程卒

1984年 お茶の水女子大学家政学部児童学科  
助教授

1997年 日本女子大学人間社会学部心理学科 教授

2011年 日本女子大学 人間社会学部長

2014年 日本女子大学 名誉教授

現 在 国際医療福祉大学大学院 特任教授

講演は、学生たちからの質問に飯長先生が答えてくださる形式で始まりました。

「心理学に関するもの」と「先生ご自身に関するもの」の2種類から、先生が交互に答えて下さいました。  
ここでは「心理学に関するもの」について抜粋します。

◆講演内容 (抜粋)

○内省力を高めるには？

クライアント中心療法における内省力とは、自分でもよく分からない内面部分に焦点をあて、その体験過程をたどることで、自分の未知の世界をふれ、本来の自分を知る事でしょう。見せている自分と本来の自分にかげ離れていると無意識のうちに自分の中に裂け目ができ、本来の自分ではないと、自信がなくなり不安になります。ここで、カウンセラーに求められることは、クライアントの中に未知の世界に入る怖さがあることに共感し、クライアントのありのままの姿を受容することです。

ここで、内省力を高めるには、自分が感じたことを友人や家族などにシェアすることや、日記などに自分の気持ちや感じていることを綴り、自分自身で確かめることが大切だと思います。

### ○クライアント中心療法の課題とは？

クライアント中心療法とは、クライアントの成長力に信頼をおき、共感的理解をクライアントに対してカウンセラーがもって行う非指示的心理療法です。ここで、クライアント中心療法の課題とは、クライアントの成長力という楽観的考え方の根拠やあたかも自分のように感じる共感的理解の概念の理解や適用範囲に問題があります。一方、古典的原理を大切にす原理派の技法のひとつにジェンドリンが考案したフォーカシングという具体的技法もあります。フォーカシングとは、自分自身のよく分からない部分に焦点をあて、体験過程の原理をたどりやすくする技法です。また、クライアント中心療法の考え方である、相手の気持ちを、相手の身になって感じ、気持ちが通じ合う人間関係の構築を大切にす基本的な態度は、医療、保育、介護など様々な領域においても広く適用可能なものとなっています。

### ○クライアント中心療法を行う中でやりがいを感じることは？

クライアントさんが勇気をもって変化していく過程に立ち会えること。また、勇気をもって自ら変化し成長していくクライアントさんの姿に尊敬の気持ちを抱くことも多くありますね。

### ○クライアント中心療法を発案したロジャーズの理論の中で、実際の生活で活かされたものは？

他者、自分自身をともに尊重する姿勢。例えば、議論をする際、相手の意見を否定したり、自分の意見をせずに相手に合わせたりするのではなく、相手と自分の意見をともに尊重する姿勢をもつことで、お互いの考え、理論を高めていくことができるのではないかと思います。

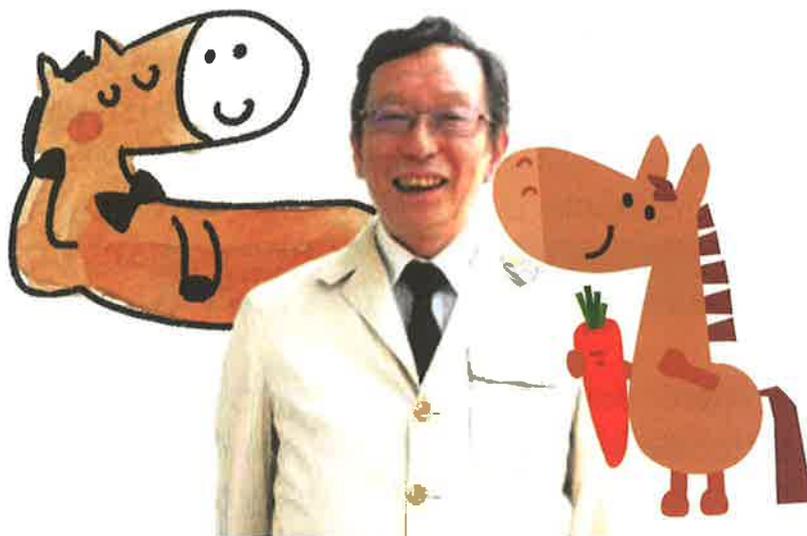
私たちからの質問に飯長先生がひとつひとつ丁寧にわかりやすく教えてくださいました。  
真面目なお話や楽しいお話に魅了されました。  
飯長先生 ありがとうございます！



講演終了後、全員で飯長先生と記念撮影



# 鵜養美昭教授 ご退職記念特集



鵜養先生は東京大学で教育行政学、大学院で教育心理学を学び修士課程を修了。在学中から目黒区で教育相談員としてもご活躍。その後 1989 年に日本女子大学教育学科の講師として着任、1998 年に教授。1989 年から日本女子大学心理相談室の創設、大学院心理学専攻臨床心理学コース開設にも携わるなど、実践現場で活躍する臨床家の育成に尽力されました。また、新入生のため入学オリエンテーションでは、グループワークなど様々な工夫をされ、大学生活での新しい友人との出会いを楽しいものになるよう力を入れてくださいました。この成果は「学生支援推進事業」として学生支援機構の最優秀校に選ばれました。学外においては、神奈川県の子童福祉審議会委員を務め、公立教育相談機関ではスーパーバイザーとして携わられたり、専門分野である学校コミュニティの知識を活かし公立学校のスクールカウンセラー制度化に関わるなど多方面でご活躍されています。

多くの現場で輝かしい功績を収められた鵜養先生ですが、「先生の研究室に入った人はもう鵜養ゼミ生」と仰るなど学生全員に分け隔てなく接して下さり、多くの学生に愛されている先生です。そんな鵜養先生のご退職は大変名残惜しいことです。先生に教えていただいたことや、先生の背中を見て学んだことを大事にしていきたいと思います。



## 鵜養先生からのメッセージ



お世話になりました

鵜養美昭

定年退職を迎えて、女子大学で接して下さったすべての方々に感謝しております。お世話いただき、ありがとうございました。教職員の皆さまばかりか、歴代の院生さん、学生諸姉にもお世話になりました。

顧みると、私は人生が始まった時から、いろいろな方にお世話していただいて来たと思います。生まれたときから未熟児で、両親と住んでいた仙台の街の人々にお世話いただき、名付け親も、貸家の大家のお婆さんでした。それ以来、本人は無自覚でも、お世話して下さる存在がいつも周りにいました。2歳半で親が母方祖父の診療所を受け継ぐため横浜に移り住んだ後も、診療所を支えて下さる多くの方々が周囲にいました。

その一方で、未熟児の私は同年齢の「仲間」には後れを取り、すべてにわたって劣等感にとらわれ、孤独感にさいなまれ、引っ込み思案で内気な子どもでした。そういう様子に周囲も手を掛けずにはいられなかったのかもしれませんが。体が効かない分、内的な世界に惹きつけられました。絵本やおとぎ話、子ども向けの小説を読みふけることから始まり、純文学や哲学書、宗教書から辞書・事典の類も乱読し、空想の中に遊ぶのが好きな子どもでした。自分でプレイセラピーをしていたと言えるかもしれません。その遊びが家で飼っていた犬や兎、山羊をはじめ、さまざま動物と遊ぶことに移り、小学校5年から乗馬を始めました。今から考えると、アニマルセラピーとしか思えません。

こうしてさまざまにお世話をしていただき、お世話こそできなくてもお返しに他者と関わるのが好きになりました。近隣に住んでいるいとこ集団9人の比較的年長な者として年少者の遊び相手としてお世話して、と言いたいところですが、付き合ってくれていたのかもしれませんが。今回のこの原稿も、学科の会の委員さんとゼミ学生が根気強く待っていて、催促し続けてくれていました。

手のかかる奴ですが、時々、西生田にも目白にも顔を出してお世話いただくことになると思います。変わらなくお付き合いいただけると幸いです。

## ゼミ生からのメッセージ

4年生鵜養ゼミ代表 中本遥夏

鵜養先生、この度はご退職おめでとうございます。これまでのご功労に敬意を表し、感謝申し上げます。鵜養ゼミではお菓子を食べてお話しし、皆で楽しくしていた記憶が鮮明です。こんなに毎日のびのびと過ごせたのは鵜養先生の温かい人柄のお陰だと思います。これからも健康でさらなる発展とご活躍を願っております。またお会いできる日をゼミ一同楽しみにしています。



鵜養先生、ご退職を心よりお祝い申し上げます。鵜養ゼミの見学へ行った時、アットホームな優しい雰囲気にもまれたのをつい先日のことのように感じます。鵜養ゼミではどんな話でも受け入れてくれる先生と皆がいて、落ち着ける場所でした。そういう場所を作れるのは先生の人柄あつてのことだと思います。また、いつも私達と熱心に向き合ってください、ありがとうございました。先生とこの大学で出逢うことができ本当に良かったです。これからもお身体に気をつけて、皆の心を癒し続けてくださる鵜養先生でいて下さい。

## 学科の先生からメッセージ

小山高正

鵜養先生は、現心理学科教員の中で希有な存在です。目白キャンパス時代を知っていらっしゃる唯一の方です（そして2021年から心理学科はまた目白キャンパスとなるのです）。また、創立者成瀬仁蔵を敬愛し、その思想を伝えるエバンジェリストたる存在といえます。さらに、今では唯一の存在になってしまいましたが、紫煙をこよなく愛する心優しい紳士です。その存在は希有ではありますが、一方その存在感は私の知る限り最大であるということに異論を挟む人はいないでしょう。鵜養先生なしの心理学科というものを考えることができなかつたはずですが、いよいよそれを受け容れなければならないときがやって来てしまいました。寂しい限りです。私個人にとって兄貴のような存在でした。年齢も1つ上でいらっしゃるので、まさに兄貴なのですが、その親しみやすさ、頼りがいからしてその存在なのです。鵜養ゼミはいつでも学科最大のゼミで、多くの学生を擁し、院生を含めた縦のつながりをもつ唯一のゼミでした。このゼミの魅力は、自由な学びとそこで得られる癒やしなのだろうと勝手に想像しています。そして、私にとっても先生の存在は、自由な学びと癒やしを与えてくれました。鵜養先生長い間ありがとうございました。



# 学生・研究室からの色紙



# 1 日本女子大学心理学科の会 会則《2016年10月改正》

## 第1章 総則

- 第1条 (名称) 本会は、日本女子大学（以下「本学」）心理学科の会（以下「本会」）と称する。
- 第2条 (所在) 本会の事務局は、本学人間社会学部心理学科研究室におく。
- 第3条 (目的) 本会は、相互の親睦、研究活動などの情報交換の場として、会員のネットワークを図ることを目的とする。
- 第4条 (事業) 本会は、第1章 第3条の目的を達成するために、会報の発行、研究発表会、年次総会、講演会、その他必要な事業を行う。

## 第2章 会員

- 第5条 (入会) 本学人間社会学部心理学科に入学した学生（以下「在校生」）及び本学人間社会研究科心理学専攻の大学院生は、入学の日より本会の会員となる。心理学科専任教員は、着任日より本会の会員になる。本学他学科の学生、卒業生、教員、退職教員等については、入会を希望し、会費を納入した者に限り、特別会員として入会が認められる。
- 第6条 (会員期間) 本会の会員期間は、10月1日から翌年の9月30日までとする。会費を前年の10月1日から9月30日までにおさめた者を新年度の会員とみなす。尚、新入生のみ入学時より半年間も、会員期間に含めることとする。
- 第7条 (退会) 会員は、本人による申し出があった場合、会員の資格を失う。

## 第3章 組織と運営

- 第8条 (部会) 本会は次の部会をおく。
  1. 学生部会（心理学科及び心理学専攻の在校生で構成）
  2. 卒業生部会（心理学科及び心理学専攻の卒業生で構成）
  3. 研究室部会（心理学科及び心理学専攻の専任教員で構成）
  4. 特別部会（特別会員で構成）
- 第9条 (会長) 本会の代表は会長とし、会務を総括する。会長は運営委員会の議を経て、卒業生部会または学生部会のいずれかから選出する。任期は2年間とし、その再任を妨げない。また、期間は最長で4年までとする。

- 第10条 (会計及び会計監査) 会計及び会計監査は、次の各号より選出する。
  1. 会計管理は、研究室部会が行う。
  2. 会計監査は、学生部会の心理学専攻修士課程から1名選出する。会計監査は運営委員会から独立し、会計年度末に会計から依頼を受け、監査を行う。

- 第11条 (運営委員会) 本会は運営のために、第3章 第8条の各部会から選出した学生委員、卒業生委員、並びに研究室委員から構成される運営委員会を組織する。

付則 講演会、総会、発送などに伴う大規模な作業において、運営委員会はアルバイトを募集することができる。募集告知、アルバイトの外注、アルバイトの任命、アルバイト代の引き渡しは、心理学科の会の管理下にある。

- 第12条 (運営委員長) 運営委員会の代表は、運営委員長とし、会長の補佐及び代行を行う。運営委員長は、運営委員会の議を経て、第3章第11条の学生委員会から選出する。
- 第13条 (代表委員) 第3章第11条の各委員会の代表である代表委員は、運営委員会の議を経て、各委員会より1名以上選出する。

- 第14条 (委員会) 各委員会は次の各委員から構成される。
  1. 学生委員（心理学科各学年2名以上、心理学専攻博士課程前期2名以上の委員）
  2. 卒業生委員（各回生より1名以上の委員）
  3. 研究室委員（心理学科専任教員から1名以上の委員）

- 第15条 (任期) 委員の任期は4月1日から翌年の4月末日までの1年間とする。但し卒業生委員の任期は定めない。
- 第16条 委員の選出は互選とする。

## 第4章 年次総会

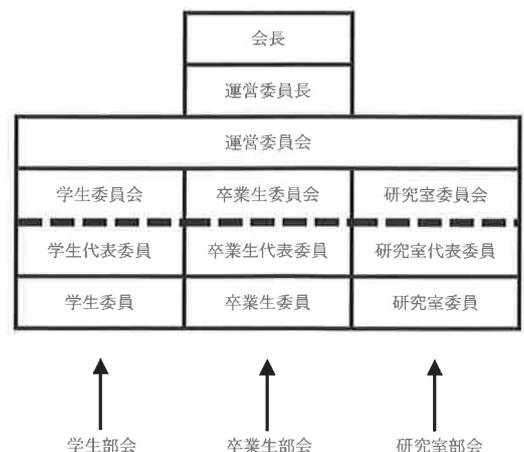
- 第17条 第1章第3条の目的を達成させるために、年に一度総会を開催する。総会の開催は、会費納入会員の過半数の同意を得なければならない。

## 第5章 会費

- 第18条 本会の運営費は、会費、寄付金とする。
- 第19条 (会計年度) 本会の会計年度は、毎年10月1日より翌年の9月30日までとする。

付則

1. 会費は入会金1,000円、年会費1,000円とする。
2. 本学在学学生及び大学院生以外の会費の納入は、銀行振り込み等とする。
3. 一度納入された会費はいかなる理由があろうとも返却しない。



2016 年度

心理学科の会 運営委員

—M1—

阿部文香 蓼沼涼子

藤重千聡 南舞衣

—4 年生—

佐々木春奈 鈴谷真美

—3 年生—

田代真唯 土屋麻里奈

—2 年生—

原沢明香里 平位菜摘

町山和乃 山田育未

—1 年生—

伊藤日名子 小倉百合恵

笹木優

—担当教員—

小山高正 教授

岡本安晴 教授

日本女子大学 心理学科の会

〒214-8568

神奈川県川崎市多摩区西生田1-1-1

TEL: 044-952-6890 (代)

2017年3月発行